

報告事項 1 . 市民懇談会委員からの意見・パブリックコメントについて

(1) 市民懇談会委員からの意見

基本構想（案）及び基本計画（案）を市民懇談会委員へ送付し、意見を募集した。

実施期間 平成 22 年 8 月 20 日（金）～27 日（金）

提出者数 9 名

出された主な意見

基本構想（案）について

『都市像』

都市像の「おいしさと笑顔がつどう みなとまち 塩竈」については、今後のまちのイメージ設定であることから、各施策のキーワードにならなければならないが、「観光」と「食育」のみに記述されている。まちづくり全体に「おいしさ」と「笑顔」をキーワードとして設定する必要があるのではないかと。フレーズとしてはユニークで面白いことは評価できます。

『基本理念』

“まちづくりの基本理念”にある3つのまちづくりの精神と、“目指す都市像”にある具体的なイメージがバランス良くマッチしていると思う。これらのことを、様々な広報活動、日常的な催しを通して広めていただき、市民1人ひとりに認知され、日頃の行動に反映されることを願う。

『重点戦略』

現在、塩竈市の高齢化率は約25%、県内で第7位、近隣市町の2市3町では松島町に次いで高いと聞いている。このまま高齢化が進めば市の人口は目標の55,000人を割ってしまうのでは。「定住」のための政策の大変重要であると考え、他の市町から塩竈への転入を希望する人々が増えるような政策も必要ではないか。

『推進体制』

目指す都市像やまちづくりの方向性を、計画書を読み、まちづくりの全体像の図を見て何となく自分なりに理解できた。少子高齢化、塩竈の重要産業の水産・水産加工業の不振、税収の落ち込み、浦戸の活用の不十分なところなど、いろいろ問題点が山積みしているとはいえ、ここから私たちは良い方向に進もうという気力を持たねばならない。1人、2人では力不足で、市役所だけが進もうとしていてもうまくいかないと思う。出来るだけ多くの市民と市役所と企業・店がみんな力を合わせて進むべきと思う。

検討案に賛成である。特に言いたいのは、「市民が担い手である」という意味が市民に浸透する何らかの仕掛けを考えていきたい（行政も市民も）し、それを盛り上げていただきたい。

『その他』

これまでの調査結果、懇談会、審議会における議論の結果が的確に纏められている。

基本計画（案）について

『重点戦略』

仙台都市圏の住宅地としての環境面・都市機能の密集による高効率面のアピールを強力に押し進めてほしい。

観光について、近隣自治体との連携（例えば松島、七ヶ浜の国際村など）を強力に押し進めてほしい。

『市民ができること』

記述にやや具体性に欠ける点があるが、市民の自主性こそが基本であることを考慮すると、余り強制的な表現ができないのもやむ無しかもしれない。

読んでみて具体的に自分の住むまちで何ができるのかがわかってきた。いろいろなボランティア活動を通して、どれだけの効果があるのかはわからないが、何かしらのためになるのであればうれしいと思う。出来る限り市の方では助力をしてもらいたい。市の建物・設備を開放していただけるのはとても助かるので、このような面でこれからもボランティア活動をしやすくしてほしい。

塩竈の都市政策の歴史をみると、資産家、地元の名家の方々の志や資財を投入して築かれた社会資本が数多く存在する。しかし、いつまでも篤志家に頼るのでなく、アメリカの大統領演説にしばしば引用される一句と同様、“塩竈市に期待するのみならず、塩竈市に何ができるか”を一般市民の方々が考え行動して戴けるよう、市と市民の信頼関係が一層強くなることを願っている。

もっと多くの人にボランティアに参加して欲しいが、これが難問である。

『第1編 誰もが安心して暮らせるまち』

第1編第2章「ともに支えあう福祉のまちづくり」では、概ね市民懇談会での問題抽出・提言等を組み入れていただき感謝申し上げます。ただ一点だけ、「福祉まちづくり条例」について具体化が実現できず残念だった。産業振興も観光振興も重要ですが、「今生きていて良かった」と心から安堵できるまちづくりこそ、これからの施策の柱にならなければならないと感じている。家族、地域、そしてまちが生き生きとなる原点は「個の幸せ」ではないか。

障害者の自立について、自立に向けての企業への雇用対策、就労支援なども重要な施策であると思いますが、スポーツ活動や文化活動など健常者とともに過ごすことができる環境を作り上げていただきたい。「ノーマライゼーション」社会の実現に向けて取り組んでいただきたいと思う。

高齢者介護施設の誘致を推し進めてほしい。

『第2編 海・港と歴史を活かすまち』

地場産業の活性化、地方都市の健全財政化が全国的に重要な課題である。そのため、塩竈市では、漁業、水産業、観光など伝統的な産業の再生、活性化を考えることは重要であるが、近隣の地域、都市と連携して、各自の強みを調整し総合して取り組むことが必要である。特に、魚市場・卸業の運営・経営については、これまでの個人経営の枠を超えて、インターネットシステムや流通システムを活用して、全国的な市場を考えていくべきである。

第2編第1章「活力ある産業のまちづくり」の【現状と課題】に、「景気動向に左右されにくい産業基盤」と記述されているが、「景気動向の左右されにくい」ではなく、「景気が悪くても安定している産業基盤」ではないか。

港湾については、塩釜港区と仙台港区は役割分担ではなく仙台塩釜港としての一体整備こそが今後の課題ではないか。

『第3編 夢と誇りを創るまち』

塩釜高校の活用を図ってほしい。

『その他』

これまでの調査結果、懇談会、審議会における議論の結果が的確に纏められている。

基本計画に述べられている内容の多くは、塩竈市のみならず全国の都市における問題と共通する課題であると思われる。当面は（既に実施されていると思いますが）活性化が成功した実例の調査の結果から、塩竈市の現状に合致した考え方や取り組み方を参考に、これらの計画を実施することが、必要かと思う。しかし、より長期的には、計画にも述べられているように、塩竈の歴史や実情に根ざした必然的な施策、他の都市や地区では真似のできない独特の方法が市民の中から提案、生み出されること、それを推奨する試みが大切ではないか。

内容が総花的、羅列的、平板的、作文的という感じが否めない。構成上のメリハリについて読みたくなる工夫やアイデアがなく、琴線に触れない。市民に分かりやすい表現をしてほしい。

今回の総合計画の10年はほんの一瞬かもしれないが、細かく見れば前の方は限りなく前の10年の延長であり、後ろには次の10年がイメージされていなければならないはずである。時間軸、歴史を考えない展望はあり得ないが、この計画にはその辺りのストーリーが無いのではないか。

具体的な事業やタイムスケジュールが載っていない。具体案を知りたいし、具体案がないと市が何をしようと考えているのかわからない。

「提案された主な具体例」

- ・市内の祭の日程を広報紙に掲載
- ・公民館本町分室を「マンガ雑誌ガロ館」に改築
- ・小学校で授業後に保護者が迎えに来るまで児童を預かる「トワイライトスクール」というサービスの実施
- ・分譲マンション完売に向け、販売業者へ塩竈の良さのPR方法をアドバイスする
- ・漁師として生活できるように生活補助の実施

(2) パブリックコメントについて

基本構想(案)について以下のパブリックコメントが寄せられた。

出された意見

「産業の活力づくり」「観光と交流のまちづくり」に高校生が関われないかと考えている。高校生の若い発想が新たな付加価値を生む可能性を秘めていると思う。

高校生、さらには小・中学生も巻き込むことで、彼らが地域を知り、地域に貢献しようとする態度を培い、さらには職業観・勤労観・コミュニケーション能力などの社会人基礎力が育まれ、将来塩竈に残る子どもが増えると思う。

現在、塩釜高校では地域活性化サークル「塩釜ぼんぼん」を全校規模で出来ないか検討中なので、もう少し具体的な案になったら市に相談に伺いたいのでよろしく願います。